

皆さん、おはようございます。

年度当初の臨時休業から始まった令和2年度も、今日で修業式を迎えることとなりました。校庭の桜は、現在、八部咲きくらいに咲いており、もうすぐ満開を迎えます。近くの里山では、あちこちでウグイスの鳴き声が聞こえるようになってきました。コロナ禍という人間社会の大混乱をよそに、自然界はしっかりと時を刻んでいることを感じました。

さて、本校では、3月1日には高校3年生、17日には中学3年生の卒業式が、在校生がいないうちで行われました。先生方や保護者の皆さんの見守る中、厳粛な、素晴らしい卒業式となり、卒業生を温かく送り出すことができました。中高それぞれの卒業生の答辞の中で、共通していた内容は、コロナ禍の中で過ごした思い出でした。特に、県内で唯一、保護者のみに参加者を限定して実施した「旭城祭」を成功させることができたことが、大きな自信や誇りとなっていたことを改めて話してくれました。卒業生が、私たちを感動させる言葉を紡ぐことが出来たのは、卒業生自身が中学あるいは高校での3年間で心から感動できる何かを経験できたからだと思っています。皆さんも1年後、或いは2年後の卒業式で、「心から感動できるものを経験できた3年間だった」そう思うことができるよう、これからを過ごしてほしいと思います。

ところで、この1年間を振り返ってみると、中高の各学年で、様々な成果がありました。

まず、中1では藍プロジェクトやSDG s 研究などを1年間かけて取り組み、お互いに刺激し合いながら成長することができました。

中2では、マイチャレンジの代替行事として、生徒自ら学年レクやスポーツ大会を企画運営するなど、自主自立の心構えができてきました。また、校内での立志式も感動的でした。

卒業した中３生も、シンカゼミの発表を通して、３年間の成長の跡を見せてくれました。

続いて、高１では、二日前に行われたクラスマッチなどの行事を実行委員が企画運営し、とても盛り上がっていました。また、地域のボランティア活動や課題研究でのフィールドワーク、様々な大会などに積極的にチャレンジしており、とてもアクティブな学年という印象があります。素晴らしいと思います。

高２については、修学旅行が最終的に中止となってしまったことはとても残念でしたが、そんな中でも、誰一人泣き言を言わず、前向きに学校生活に向き合っている姿を、私は忘れることはできません。課題研究にもしっかり取り組み、様々な学年行事を企画運営するなど、いろいろな場面で成長を感じさせてくれました。こうした、皆さんの頑張りはいつか報われる時がくると信じています。

卒業した高３生は、進路実績でも大きな成果を残してくれました。受験は団体戦、と言われるますが、自分の進路先が決まった後でも、これから受験する仲間のことを思い、全体のモチベーションを高めてくれたおかげで、全員が最後の最後まで頑張りができました。これは、本当に素晴らしいことだと思います。それが、東京大学や京都大学といった最難関の大学を始めとする合格実績につながったと思います。

中高の各学年とも、コロナ禍にもかかわらず、最高の頑張りをみせてくれました。

続いて、部活動などについてですが、

中学では、硬式テニス部が、７年連続で関東大会に出場を果たしています。

高校では、ボート部が、９月に行われた全国大会で、初の８位入賞となったことは、皆さんも知っていると思います。さらに、今週末の３月２６日から２８日にかけて、静岡県浜松市を流れる天竜川で開催される全国高校選抜ボート大会に出場することになりました。関東大会を勝ち上がっての全国大

会出場は、創部以来初の快挙で、顧問によると、ボート部では、インターハイ出場の10倍の価値があるということです。全国大会での健闘を祈っています。頑張ってきてください。

また、部活動ではありませんが、SGH クラブディベート班は、数々の全国大会で上位入賞を果たしており、3月21日には、即興型ディベートの甲子園といわれるパラメンタリーディベート連盟杯の全国大会へ栃木県の代表として出場しました。今年度は、まさに破竹の勢いで勝ち進み、英語ディベート全国大会の常連校となってきました。また、三日前に発表となった、第1回サステナビリティ・アワード2020でも入賞したことは、喜ばしいことです。

同様に、SGH クラブ研究班は、今年度はマレーシアの高校生たちと長期間にわたり、オンラインで協働研究を進めてきました。3月21日に開催された「探究甲子園」に全国からの40校に選ばれ発表しました。マレーシアの高校生との課題研究で得られた成果を踏まえた立派なプレゼンを行い、大学の先生からも、高い評価を受けていました。

いずれも、コロナ禍というネガティブな状況の中で、素晴らしい成果をあげています。これらの活動には、共通点があると思っています。それは、大会に出場できる選手、全体で発表できる生徒は一部だけだったかもしれませんが、一つの大きな目標に向かって、高め合う集団になっていたことです。

こうした高め合う集団が、生徒自らの手によって成し遂げられたことは、本当に嬉しく思うと同時に、そうした皆さんを誇りに思っています。

そこで、中高すべての生徒の皆さんには、今後も「お互いに高め合う集団になってほしい」と思っています。そのためには、その構成メンバーである皆さん一人一人が、「素直な心」つまり、「耳を傾ける心」と、「すべてに学ぼうとする謙虚な心」を持つことが必要である、と思います。

最後に、来年度のことについて、お話をします。

すでにご存じの通り、SGH 校としての文部科学省からの指定は今年度限りですが、5 年間の活動を通して、大きな成果がありました。これまで紹介してきたことも、その一つだと思っています。生徒全員が取り組む探究活動はもちろんのこと、SGH クラブとして大きな成果をあげるようになり、皆さんの将来の進路とも大きな関わりを持つようになってきました。

そこで、来年度以降も、これまでに培った教育活動の成果を引き継ぎ、SGH の活動を「SANO グローカル構想」という名称のもとで、これまで通りの探究活動を実践していくことにしました。

「SGH クラブ」は、来年度からは、「SANO グローカルクラブ」として、新たに活動していくこととします。本校が、生徒に身につけさせたい力である「探究力」を育成するために、さらに学びたいという生徒は、希望すれば参加することができます。

なお、本校には、多くの部活動がありますが、学校の規模に応じた部活動の数としては、現状が限界であると考えています。そのため、SGH クラブもそうでしたが、「SANO グローカルクラブ」も部活動ではなく、本校が目指す「探究力」を身につけるため、さらに学びたい生徒のための「クラブ」とし、他の部活との掛け持ちも認めています。また、活動にかかる費用は、生徒会の部費からではなく、PTA の予算から支出することとし、他の部活動の部費に割り込むことのないように配慮したいと考えています。このように、今後も、部活動とは違った扱いになりますが、皆さんにはご理解をお願いします。

さて、明日からは春休みとなります。新型コロナに始まり、新型コロナで終わる1年間でしたが、コロナウイルスと人類との戦いは、まだまだ終わる気配はありません。1都3県の非常事態宣言は解除されましたが、栃木県では、感染状況が増加傾向に転じており、警戒度レベルが「厳重警戒」に引き上げられました。春休みとは言っても、これまで通りの基本的な感染対策の徹底をお願いします。特に、「会話するときはマスクをする」ことは、最低限守って欲しいことです。併せて、1都3県への不要不急の移動は避けるようにし、万全の状態で新年度を迎えられるようにしてください。

世界中が今、試練の時を迎えています。世の中の動き、世界の動き、をよく見ておいてください。今の世界の状況から学べることはたくさんあると思います。世界的なピンチを、人類がどうチャンスに変えていくのか、そして、その中で、皆さんがどんな学校生活を送ったら良いのか、しっかり考えてください。

以上、皆さんが、また4月から、明るく、元気で、何事にも素直に、一生懸命に、取り組んでいってくれることを大いに期待して校長からの式辞とします。